

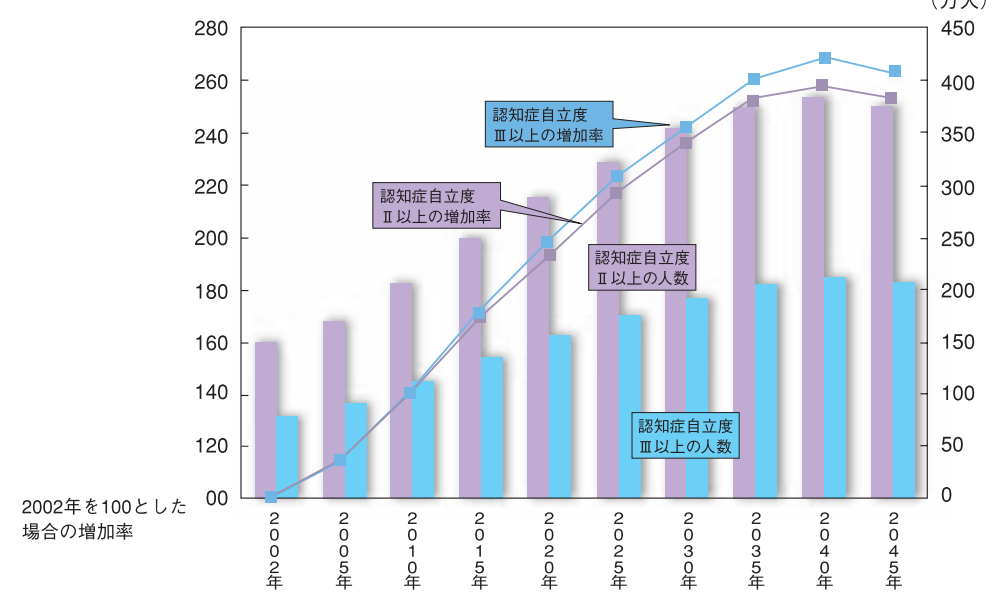
6 変わる！ 認知症ケア

課題と対応

- 課題**
 - 現在、ほとんどの認知症の方々が、総合病院の精神科又は神経内科で診断を受けています。かかりつけ医や主治医によって適切な診断を受けている方は、全体の1/5以下です。
 - 何か様子がおかしいなど気づいてから専門医療を受診するまで1年以上の時間を要しています。そして診断を受けた後でも、家族は適切な対応が出来ずに困っている例が多いのです。
 - 高齢者の多くは何らかの身体合併症を持っていますが、徘徊や拒否などの周辺症状があると、適切な治療ができにくくなります。このため、一般病棟では中途退院となる方も増えており、認知症高齢者の半数程度が十分な医療を受けていないと感じている看護職もいます。
 - 要介護認定された方の4人に1人は自立度Ⅲ以上の重度の認知症と言われていますが、認知症治療を受けている患者はわずか32万人で、認知症患者の治療及び療養の実態はよくわかっておりません。

対応 要介護認定者だけでみても、10年後には、自立度Ⅱ以上の認知症の方は、現在の2倍になると予測されています。

要介護高齢者の認知症自立度の将来推計

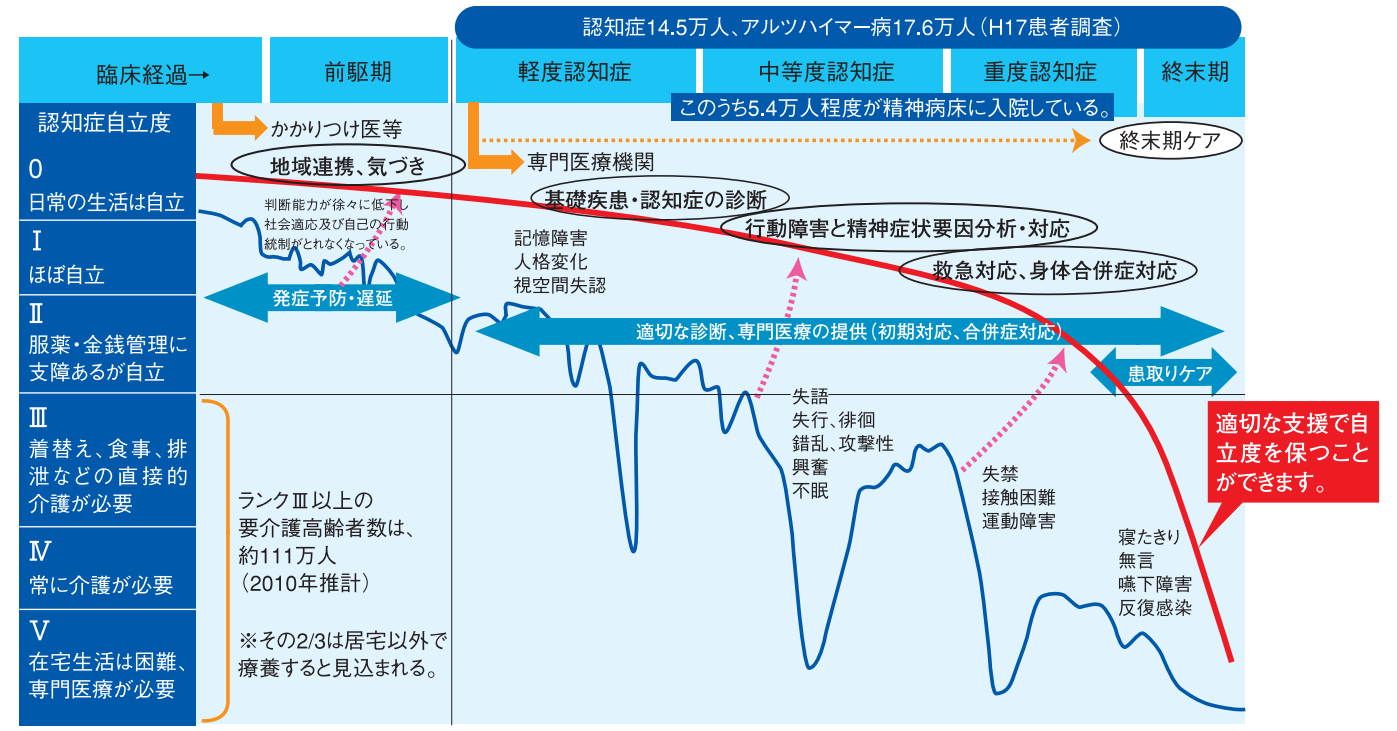


今後は急速に75歳以上の高齢者割合が増えていくことがわかっているのですから、いまずぐにでも社会全体で対応策を講じていく必要があります。

看護職ができること

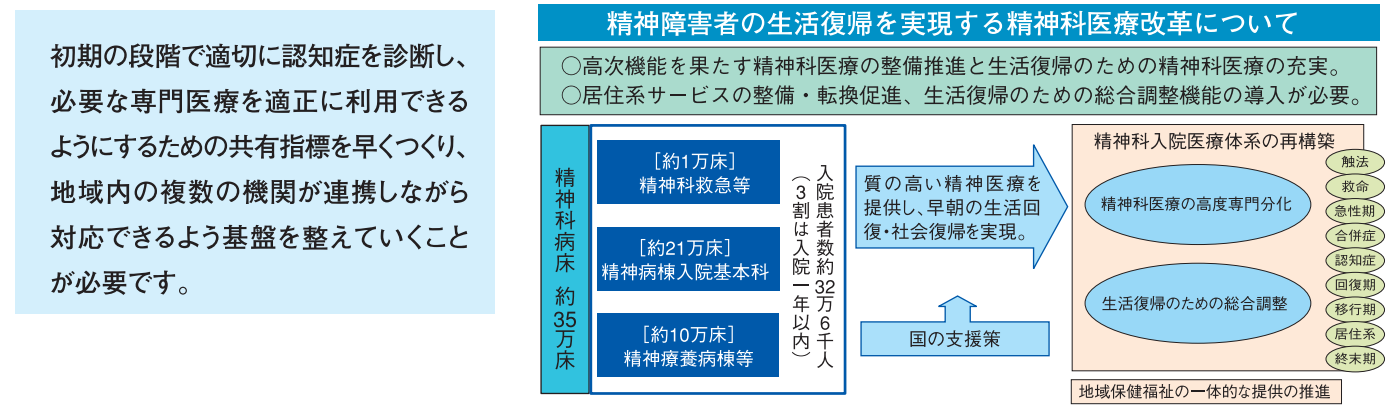
- ① 認知症高齢者が初期の段階で適切な治療を受けられるよう支援すること
- ② 家族や介護関係者が問題となる周辺症状への対処方法を早く身につけられるよう支援すること
- ③ たとえ病状が進んだとしても尊厳ある死を迎えられるよう支援すること

認知症の臨床経過と認知症自立度に応じた対応について



認知症専門医療の基盤整備について

認知症の入院患者全体の7割 (5.4万人) は精神病棟を利用しています。また、精神病棟の入院患者のうち16%が認知症患者です。精神科病棟は今、実質的に、認知症の総合診療を担っています。しかし認知症専門の医師及びコメディカルが、何人いて、どこで養成され、どこに勤務しているのかはわかっていません。



急速に増加した認知症の方々が安心してその人らしく、なじみのある環境で生活するために必要なことは次の4つです。

- 1) 周囲の人たちが認知症に早く気がつくこと
- 2) 専門医療を提供できること
- 3) 認知症のさまざまな問題に対応できること
- 4) 看取りのケアを提供できること